

2018年度森林公園だより No.6 2018年5月14日

寒暖の差が激しい日々が続いていますが、ギンリョウソウが例年通り顔を出しました。ニガナの仲間、ジシバリなどの春の花、ヤマツツジ、タニウツギが咲いています。ホオノキの花も咲きはじめました。ホオノキは日本の在来種では最も大きな花を咲かせる木です。MISIAの里山ミュージアム2017 フォトコンテストの作品展が始まりました。野鳥観察会1は引き続き募集中です。インフォメーションセンター窓口でお問い合わせください。職員が確認したところ、キビタキ、サンショウクイ、シジュウカラ、ツツドリ、ヤブサメなどが確認できました。

ギンリョウソウ



ギンリョウソウ



ベニタケ類



ハナニガナ



シロバナニガナ



ジシバリ



ヤマツツジ



園内林道から白山を望む



かもいけ橋からの風景



MISIAの里山ミュージアム
フォトコンテスト写真展



一口メモ

ギンリョウソウはユウレイタケとも呼ばれ、キノコ的一种と考えられていたこともあったようです。

ナラ類などの樹木と共生する外生菌根菌(キノコ)から栄養分を得ている変わった生態の植物です。図鑑などでは腐生植物とされていましたが、近年では菌従属栄養植物と呼ばれています(ニュアンスとしてより正確になった)。

多くの方に観察していただきたいので、採取などはせず、観察に留めてください。

お勧めの場所はサイクリングターミナル横のクヌギ林です。